カレッジ通信

発行
東京建築カレッジ

2016年4月入学
第21期生募集特集号

次の時代を担う建築スペシャリストへ！

第20期生に聞く。東京建築カレッジの魅力

働きながら2年間、東京建築カレッジで学ぶことを選んだ研修生たちは、どんなきっかけでカレッジに入学し、どのような教育内容に魅力を感じているのでしょうか。20期生3人に聞きました。

入学のきっかけは？

内田　造園の仕事をしているのですが、自分一人で初めて手がけた庭に小さなお社があり、施主さんから「ボロボロなので直してほしい」と頼まれたのがすべてのはじまり。相談しようと思い、近所の工務店を訪ねたら、高齢の大工さんが水車の模型を作っていました。

内田聡弥さん（32）

これはすごいな、と思って声をかけてみると、若い子に学校で教えているという話に。カレッジで指導員をされている土方茂先生だったのです。土方先生との出会いで、建築カレッジを知り、1年間かけて授業料を貯め、東京土建の組合員になった後に入学しました。土方先生との運命的な出会いに導かれました。

渡邉　文系の大学生だった私は、就職活動で会社説明会や採用選考をたくさん受けているうちに、「会社員でやっていけるだろうか」と不安になってきました。工務店を経営する父の影響もあって、「手に職をつけたい」と考えるようになり、18期生のバイト先の友人から様子を聞き、受験することにしました。

渡邉智奈美さん(22)

高野　私は、大学の建築学科で学びながら、建築家の設計事務所でも働いていました。そのとき、設計と現場の実務の両方ができる人になりたい、と思うようになりました。設計の仕事の現場で、そういう人が少ないことに気付きました。そこには需要があるのではないか、と考えたのです。直接のきっかけは、父から東京土建の機関紙「けんせつ」のカレッジの紹介記事を見せられたこと。自分なりに作る方はやってきたつもりでしたが、基礎から学びたいと思って入りました。

学校の良いところ

高野展昌さん(37)

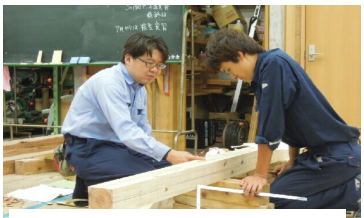
高野　第一に、研修生の年齢の幅広さですね。もしかしたら自分の子どもでもおかしくない年齢の若い子から同世代の仲間まで、いろいろな人がいて交流できるのがいいですね。年齢に関係なくやる気があればどこまでも成長できる学校です。第二に、授業料がお財布にやさしいこと。月3万円でこれだけ充実した内容はありません。道具や材料も頼むと安く融通してくれます。第三は、大学の建築学科のカリキュラムでは座学と実技がリンクしていないな、と感じることが少なくありませんでした。でも、この学

2016年度・第21期入学生 募集要項　（抜粋）

・募集学科　高度職業訓練専門課程
　居住システム系建築科
・定員　20人（募集人員は30人まで）
・応募資格　建築の仕事に携わりながら建築技術者・技能者を志す意欲ある方で、下記のいずれかに該当する者。①高校卒業以上、②18歳以上で、学校長が①と同等と認めた方
・入学資格　入学時以降は、カレッジへの通学を保証する建築関係の事業所に入職していること
・通学日　①金曜日と土曜日の午前8時35分から午後6時45分が通常授業です。②月一回程度、木曜日または日曜日等に登校日があります。③1年次に入学式翌日から9日間の集中授業があります。
・費用　①入学金100,000円（手道具代相当分）　②授業料 月額31,000円※応募方法、募集日程、入学試験などについては、お気軽に資料をご請求ください。

TEL03-5950-1771
東京建築カレッジ 西岡、吉川

校は違います。両者がしっかりかみ合うように教育内容が設計されています。


実習に取り組むカレッジ生

内田　うーん、居残りできるところかな。東京都の職業訓練校では早出はできたけれど、夕方は午後5時で終わりでした。カレッジは実習課題の遅れを取り戻すための自習時間が保障されています。それから、授業では、すごいことを教えてもらえる。たとえば、橋本英夫先生がノコギリの握り方をさらりと話したことがありました。「これって極意じゃないか」って声を上げそうになりました。そういうことをぽんぽん教えてくれる、そういう学校は他にはないです。私が一番学びたかった規矩術の基礎から、建築の歴史まで、教育内容が建築全体をカバーしているのも面白い。

渡邊　高野さん、内田さんと違い、昨年、働き始めたばかりですが、現場では学べないことばかりだというのはわかります。ノミの砥ぎなど手道具の手入れから始まる授業はとても新鮮。あと、すべて自分でやらないといけない、遅れたら自分で何とかしなくてはなりません。精神も鍛えられている感じです。遅れがちの私は、先生たちやクラスメートに助けられています。

興味を持っている人に一言

内田　入らないと後悔しますよ！（笑）

高野　とりあえず入ってみたら、と言いたい。仲間がいるから大丈夫。続けられます。

渡邊　納得できるまで見学して、やりたいなって思ったらやってみましょう。

無垢（むく）の新人を育てる特別な意義

守屋工務店　守屋辰彦さん

５月13日に開かれた東京建築カレッジ研修生派遣事業主総会・研修交流会で、複数の社員を派遣し若手育成に活用してきた守屋工務店（小金井支部）の守屋辰彦社長の特別講演が行われました。発言の一部をご紹介します。

◇　◇　◇

私が建築カレッジにお世話になり、若い人を育てようという意識になっているのは、建設就業者数の激減に危機意識を強めているからです。そして、大工の仕事の魅力を世間に広め、カレッジの立ち上げにもかかわった叔父、守屋今朝登の影響もあり、社員をカレッジに派遣するようになりました。

現場経験のない人を雇うというのはですね。やはり怖いものがあります。ですから即戦力の経験者を求めて回ったこともありました。しかし、一度どこかで経験した人は純粋に私についてきてくれるわけではないという経験もして、無垢（むく）な状態から育てていきたいな、という思いが強まりました。

２年間のカレッジ生活を通して、若手社員が成長していく姿を見るのは本当に楽しいです。あるとき、うちの40代の棟梁が言いました。「今からでも建築カレッジ行きたいなあ」。基本的な動作、知識が色々学べるカレッジの魅力を部下から感じたからなのですね。すでに現場を率いている彼は、基本をきちんと座学を含めて学ぶカレッジの意義を理解しているのです。

これからも次々に若い人を入れて育てたい。また、若年層の入職率の低下の深刻な状況を変えていくには、どうしたらいいか、考えまして、市内の中学校３校ほどを対象に体験教室をやっています。こうした経験をきっかけに、この業界に少しでも目を向けてくれたらありがたいな、と思います。カレッジとも、これまで３人ほどお世話になった経験を糧に、これからも良い関係を続けていきたいと思っています。

当面の見学会＆説明会

［見学会］
①6月19日（金）、②7月24日（金）、③8月28日（金）
会場：「江東実習場」
時間：13時～15時

［学校説明会］
7月22日（水）
会場：「池袋本校舎」
時間：①14時～、②19時からの２回

［カレッジ専用求人票］
新規に従業員を雇用し、カレッジへ研修生を派遣を考えている事業所の皆さん。「求人票」をカレッジへください。用紙はカレッジからお送りします。

上記日程以外の見学、個別説明も可能です。お気軽にご連絡ください。
TEL03-5950-1771
東京建築カレッジ 西岡、吉川

会場地図はウェブサイトからダウンロードできます。検索 建築カレッジ